

H30 生徒からの授業評価

(国語科)

アンケート結果

- ・授業に対する興味関心は多くの者が持っている。授業内容も「よく分かる」「わりと分かる」と答えた生徒が75%を越えていた。
- ・予習は「あまりしていない」「していない」と答えた生徒が約80%、復習は「あまりしていない」「していない」と答えた生徒が約75%である。「努力不のため成績が不振である」と答えた生徒も約30%いる。
- ・授業については「今のままでよい」と答えた生徒が80%を越えていたが、授業内容について「難しい」授業の進度について「進み方が早い」と答えた生徒もいた。

今後の取り組み

- ・生徒の主体性や思考力・表現力を育てることを目指し、授業改善に取り組む。
- ・家庭学習の習慣をつけ、予習・復習を積極的に行う生徒を育てるための工夫をする。

(地歴・公民科)

授業に対する興味を持っている生徒は8割以上、内容に関しては9割程度がおおむね理解できている。一方、予習復習は、「あまりしていない」「ほとんどしていない」生徒が7割以上おり、定期テスト前の一夜漬け学習の者が多い様子である。

成績に関しては、「努力した結果良い成績を収めている」「努力に応じた成果が出ている」、とした者が6割強であるが、「努力不足で成績不振」を選んだ者も2割程度おり、自ら学習の不足を感じている者が一定数いる。

授業内容、授業進度に関しては、おおむね「ちょうどよい」と答えている。授業に対しては、今のままで良い、と答えた者がほとんどであった。

これらの結果から、日常の家庭学習に地歴公民科を取り入れている者は少ない点が問題であると考え。小テストなどを定期的に組み込むとともに、新聞やニュースなどに興味を持たせ、日常的に触れさせるための工夫をしていきたい。

(数学科)

1 生徒の現状 (アンケートより)

授業に対する興味は、いつもあると時々あるを合わせて64%、授業の内容がよく分かるとわりと分かるを合わせて70%、予習・復習についてはいつもしていると時々しているを合わせてそれぞれ、25%と36%であった。授業内容・進度についてちょうどよいがそれぞれ65%と76%、工夫がされているはいつもと時々を合わせて91%であった。

2 取組と成果

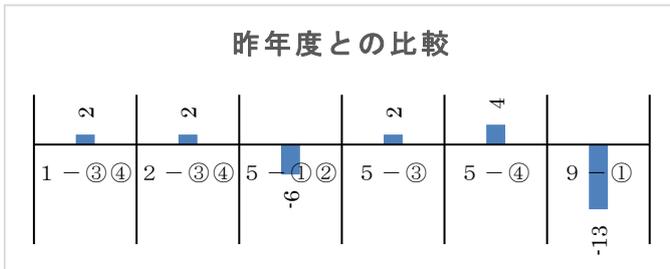
復習をしてない生徒が多いので、学習内容の定着が不十分である。この点に関しては、小テストや確認プリントを用いて、生徒が少しでも授業前に復習をすることができるようになってきている。また、1年生のクラスでは提出物としてチャートの例題に取り組みさせ苦手意識の克服に努めた。さらに、意欲の高い生徒には問題集の応用問題を解かせ、発展的な学習にも取り組ませている。

3 今後の課題

- ・少人数・習熟度別授業の利点を生かして、生徒に考える時間を多く与え、机間巡視で生徒のつまづきを見つけて対応していきたい。
- ・生徒が自分で解けたことによる喜びや達成感を与え、少しでも生徒の自信につなげていきたい。

(理科)

●現状



(グラフ中の数値の単位は%)

- 1-③④授業に対する興味があまりない、ない
- 2-③④授業の内容があまりわからない、わからない
- 5-①②努力した結果良い成績を収めている努力に応じた結果が表れている
- 5-③努力しているが結果に表れない
- 5-④努力不足のため成績不振

1-③④の割合の上昇と2-③④の割合の上昇は、関係性があると考えられる。内容が分からない生徒が増えたことが、5-③や④の割合の増加や9-①の減少につながったのだろう。

●改善点

- ・今までよりも実験や作業をできる限り取り入れて、授業に主体的に取り組める場面を増やし、興味を持たせられるような工夫をしていく。
- ・小テストや演習を実施したり、宿題を課したりして、復習をできる機会を設け、内容の理解と定着に努める。

(体 育)

体育全体のまとめとしては、体育授業の興味関心は90%以上のものはあると答えているが、残り数パーセントのものは興味関心がないと答えている。

また、1年生にあまり興味がないと答えている割合が高く、その改善が今後の課題であろう。

(保 健)

保健の授業に関して、70%以上の生徒が興味関心を示しているものの、約30%の生徒があまり興味がないと答えており、授業での工夫が必要であると思われる。

生活に密着している教科であり、健康に関する重要な教科であるにもかかわらず、約3割の生徒が興味がないと答えているのは問題である。

講義形式の授業の見直し、アクティブラーニングを取り入れた、生徒参加型の授業の展開など、工夫した授業が今後重要になってくるとと思われる。

授業の進度 わかりやすさへの工夫等は90%以上の割合でよいイメージでとらえられており、今後も継続したい。

授業業に対する要望はとくにはなかった。

(芸術：音楽・美術・書道)

1. アンケート結果

- ・授業への興味・関心は選択している関係もあり高く、また意欲的に取り組んでいると答える生徒が多い。
- ・内容についても、ちょうどよいという生徒が多いが、難しいや、やさしいと感じているものも少数いる。
- ・授業に対する要望として、ゆっくり進んでほしい。丁寧に説明してほしいという要望が少数だがでている。

2. 今後の取り組み

- ・興味、関心が高い生徒が多いが、少数ではあるが取り組みに対して関心が低い生徒もいるので、その生徒たちが関心の高い生徒と同じ空間に居てもモチベーションが保たれるような授業の改善を図る。
- ・進度については、個々に経験が異なるので、それぞれにあった課題が選択できるようにする。
- ・内容についての説明を、視聴覚機器等を使い丁寧に行う。

(英語科)

7割の生徒が興味を持って授業に取り組んでいる。内容・進度は丁度よいと考えている生徒が大半である。また、生徒の理解を助ける授業の工夫がなされていると感じている生徒は9割を超えている。これは授業担当者間で授業用プリントや、授業中の活動などの工夫を共有している成果が表れていると評価できる。

しかし、授業の予習を行う生徒は2割、復習を行う生徒は3割しかいない。また、努力不足で成績が不振であると感じている生徒が3割を超えている。さらに、真面目に取り組む生徒の中に「ゆっくり進んでほしい」「丁寧に説明してほしい」という希望を持つ者がいることもわかった。

この実態を踏まえ、今後は、

- ・生徒が理解できたことの定着を図るべく、家庭で復習を確実に行うように宿題や小テストを増やすよう改善をしていく。
- ・生徒の理解を深める授業の工夫は継続して行っていく。
- ・意欲の高い生徒に対する個別の指導も継続して行う。

等の改善を重点的に行っていきたい。

(家庭科)

1 生徒の現状と課題

- ・実際に体験する授業への関心が高く、積極的に取り組んでいる生徒が多い。
- ・授業で学習した内容を実生活で活かしている生徒が少ないため、授業内容をいかに自分のものとし、定着させていくかが課題となっている。
- ・学年が上がるにつれ、授業内容に興味関心を持ち、目的意識を持って授業に参加できており、もっと努力したいと考える生徒が増えている。

2 課題を解決するための方策

- 講義形式の授業において五感に訴える資料等を準備し、より実感のわく授業を心がける。
- 家庭生活に関わる最新のニュースを授業の中で伝え、社会の新しい変化に対応できる力を養う。
- 授業内容を実生活に活かす具体的方法を提示し、生徒の気づきを促す。
- できあがった作品を友だち同士で相互評価したり、展示したりする等、評価してもらえる場を増やし、達成感を味わえるよう工夫する。

(商業・情報科)

1 現状

- ・多くの科目で、興味・関心を持って実習に取り組んでいる。
- ・授業に対する要望は「今のままでよい」と答える生徒が多数であるが、「もっと質問の時間を取ってほしい、考える時間を取ってほしい。」という意見もある。
- ・コンピュータを活用した授業では、得意不得意のリテラシー格差が想定されるため本人のペースに合わせる時間を取り、余裕ある実習を実施している。

2 目標・改善点

- ・検定取得に向けて、基本的な計算や記帳方法から演習問題・模擬問題までを繰り返し解かせ自信を身につけさせていきたい。
- ・検定受験率（受験者/申込者）や合格率（合格者/受験者）を上げる必要がある。そのためには、申込時のモチベーションを維持させることが肝要である。また、「社会と情報」（1年次）の履修時から計画的に指導を続けていくことは進路選択に資することとなり得るだろう。
- ・商業の学習を通じ、社会に役立つ人間形成の一助となることができれば幸いである。